



いつまでも美しく暮らす“住まいのルール”

アトリエサラ・一級建築士 水越 美枝子様

卓話者紹介

八木 壮一 会員

私の家をリフォームする時に、水越さんのフォーカルポイントという言葉を知りました。フォーカルポイントとは、玄関や部屋に入った時に、最初に目に入るところです。私の家は植物園が近いので、植物園が見えるようにリフォームしました。水越さんの特集が日本経済新聞にも掲載され、書籍も出版されています。皆様、是非参考にして下さい。

機能性と精神性の両立で、住み心地のいい家に

みなさんは「住み心地のいい家」とは、どんな家だと思いますか？「使い勝手が良くていつも片付いている家」「雰囲気があってくつろげる家」多くの方がこんなふうに答えます。実は、前者は機能性で後者は精神性を言っていますが、家づくりではどちらも重要です。両方満たす家を作るために、住まいづくりで使うコツやテクニックをお話します。

フォーカル・ポイントの印象で家の印象が決まる

大きなホテルのロビーやダイニングなどに足を踏み入れたとたん、別世界にきたような気分になることはありませんか？空間の中で視線が集中するフォーカル・ポイントの印象が、ホテル全体の印象になり、訪れた人の心に強く焼き付けられるのです。

住まいも同様で、家全体を美しく見せる基本は、扉を開けて、まず目に入る場所のフォーカル・ポイントを整え、魅力ある空間にすることです。日常の住まいでも、目に飛び込む一瞬のシーンで人の気持ちが変わったり、心地よくなれたら素敵です。

ところで、住まいの個々の場所の印象は、フォーカル・ポイントに左右されますが、特に第一印象となる玄関のフォーカル・ポイントは重要です。そこに見せたいものを飾れば、人の目を引きつけるので効果的です。すっきり整えるだけでも印象のよい家になります。逆に、いちばん目につくところが乱雑だったり、そっけない壁だけだと、家全体の印象が悪くなってしまいます。

私は住宅を設計する際、あらかじめフォーカル・ポイントになる場所に、見せ場をつくりやすくするようにしています。みなさんも実際に来客になったつもりで、自宅の玄関を開け、フォーカル・ポイントチェックしてみてください。

洗濯動線を見直せば生活が変わる

住まいの住み心地は、「間取り」つまり「動線」の良し悪しで決まります。簡単に言えば、住まいは家事の動線と身支度の動線に左右されがちです。

中でも重要なのは洗濯（衣類）の動線。洗濯は、食事の支度と同じように毎日のように行う家事ですが、衣類を着たり脱いだり、たたんだり、しまったりという動作を含めると、私たちが衣類のために移動している距離はかなり長いものなので、私はこの「洗濯動線」を、家全体のプランを考える時のひとつの基準にしています。

例えば、パジャマを例に考えると、起きてパジャマを脱いでから、夜再び着るまでに、脱ぐ→洗う→干す→取り込む→たたむ→しまう→着る、という7つの行動をしているはず。それぞれの場所への移動の歩数が少ないほど、家事や身支度に左右されずに生活ができます。数十歩の差なんて小さなことと思うかもしれませんが、積み重ねれば、一生の間に無駄にする時間や労力、ストレスは思った以上に大きいものです。

具体的に設計では、寝室と洗面室を近づけ、洗面室は、干し場にできるだけ近づける工夫をします。最近ではこの考えを受け入れてくださる方が多く、洗面室や浴室が、寝室やバルコニーのある2階にある、というプランも増えています。

動線は収納の工夫で短くできる

新築やリフォームの予定がない場合でも、収納場所を変えたり、スペースの使い方を見直すことで、動線は短くすることができます。例えば、入浴のたびにわざわざ下着やパジャマを自分の部屋まで取りに行くのは面倒なものです。洗面所に下着やパジャマが収納してあれば、動線を減らすことができます。干す場所とたたむ場所は、干場の近くに作業台をつくり、そこでたたむようにすれば、干す→取り込む→たたむ、の動線をゼロにできます。

動線が短くなると、生活がシンプルに快適になるはず。年をとってからの暮らしを視野に入れるなら、肉体的な負担を減らすための効率化も図りたいものです。

閉会点鐘

奥山 聡会長

水越様はバンコクに6年ほど滞在していたことがあり、本日の卓話料は水越様のお申し出により、アカ族の子供たち支援プロジェクトにご寄付下さいました。有難く頂きます。